

昭和四十二年五月招集

第二回市議會臨時全會議錄

館山市議会第三回臨時会公議録

昭和四十二年五月招集

一五月二十九日(水曜日)

一現在議員三十三名でその氏名次のとおり

一番	吉田勇治郎	二番	石井輝久
三番	嶋田石蔵	四番	伊賀多朗
五番	藤田益右	六番	磯辺博
七番	白熊盛太郎	八番	黒川正
九番	三幣勇	一〇番	西村真次
一一番	菊井敏博	一二番	小柴孝
一三番	山田教宇	一四番	遠山ヨネ子
一五番	石井正	一六番	五十嵐昇
一七番	江田徳太郎	一八番	安西益男
一九番	島野茂樹郎	二〇番	中村有吾

二一番 岡 武夫 二二番 小澤 惠太郎

二三番 飯田 義男 二四番 田中 禄郎

二五番 田村 源治郎 二六番 秋山 六三郎

二七番 安沢 徳順 二八番 望月 照正

二九番 鈴木 市蔵 三〇番 山口 康

一議事日程

日程第一議案第甲八号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について
日程第二議案第甲九号 館山市助役の選任について

一法第百三十一条による出席説明員

市長 本間 譲

収入役 高木 哲三

財政課長 長谷川 広治

庶務課長 山口 実

秘書課長 小倉 澄男

人事課長

小澤正治

調査課長

石渡東

市民課長

羽山房雄

収納課長

横溝功

一本議会の事務局長、局長補佐、書記及び職員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

高尾豊

書記

矢藤恭一

同

斎藤武男

同

庄司徹

同

錦織睦子

職員

島田寺

出席議員

三十名

欠席議員

なし

午前十時十分 開議

議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数 三十九名

、より第三面市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案審査のため地方自治法第百五条の規定による出席要請
に対し、本間市長、高木収、後長谷川課長、山口課長、小倉課長、小澤課長、
石渡課長、羽山課長、横溝課長以上の者が出席する旨の報告がありました。
議案を配付いたさせました。

議案の配付漏れはありませんか。配付漏れなしと認めます。

監査委員より三月及び四月美施の監査結果が報告されております。

それ以外お手もとに配付の印刷書により御了承願います。

会議録署名議員の決定を行います。

本臨時会の会議録署名議員に九番議員三幣 勇君、三番議員

飯田義男君以上両君を指名いたします。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって決定いたしました。

会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき、議会運営協議会の意見は本日、日ということであり、
おはかりいたします。

会期を一日と定めます。ことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって会期は一日と決定

いたします。

暫時休憩いたします。

午前十時十四分

休憩

午前十時五十分

再開

議長（吉田勇右郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。
 本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。
 つゆより本臨時会の案件につき市長の説明を求めます。

（市長登壇）

市長（本間 讓君）　　あいさつ申し上げます。本日ここに臨時市議会とお願ひいたしまして、この議員の各位には非常に御多忙のところおいでをいただきまして、まことにありがとうございます。

付議事件は条例関係一件、人率関係一件であります。本年三月国会で成立、公布と見まされた地方税法の一部改正に伴い、急激に市税条例の一部を改正する必要がありますが、ふが市条例の改正要案としまして、市民税の基礎控除とほじめ配偶者控除、扶養控除等の引き上げを行ない、ほか専従者控除の引き上げがあります。また軽自動車税の原動機付自転車及び特定の中型特殊自動車に対する日割課税の廃止、税制の簡素化による端数計算の簡

素化々らには地方団体の道路財源を充実するために自動車
取得税の新設、電気ガス税の免税免の引き上げ等であり、
いずれも住民負担の軽減と合理化をはかる中で地方財政の確
保をはからうとするものであります。

次に人事関係としましては、本市の助役の選任の件でござい
ますが、小出助役は都合によりまして三月五日もって辞任の申し出がござ
います。ところが病後でもございます。また市役センターも五月に落
成する。こういうことでございまして、今日まで関係してあり
まして、後任の選任をいそいそでおこなうわけでございしますが、後任の選
任につきましては、これは重要人事でございしますので慎重考慮
をしましていろいろ検討をいたしました。やはり課とのつながりを持て地
方自治に理解を持つ立派な人格者というふうなことで、知事さ
んに推せん方をお願いいたします。けれども、知事さ
んの方からは三名の候補者が出たわけでございまして、一名の方

は選出の方でございませう。一名は房州現在安房支庁長をやつております。島山さんでございませう。たが、やはり助役として迎えるには市長としてはその人の人格とかいろいろわかるおることか非常に大事でありますので、また郷里でもございませう。十分助役としての仕事ができるということとを考えまゝして、島山現支庁長と選任したいという、ことを私考えまゝして、きょう御提案申上げたいわけでございます。

二つの案件でございませうが、両方とも慎重御審議いただきまして御決定をいただきたいと思つた次第でございませう。簡単にございませうが、言御説明申上げました。(拍手)

議長(吉田勇治郎君)

日程第一議案第四号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第四号、館山市税条例の一部を改正する条例の制定について

議長(吉田勇治郎君)

説明を求めます。

調査課長(石渡東君) 御説明いたします。一番最初の第十九条が三号中「第六項」と「第五項」に改める。これは今まで税法の三百三十一條の八の中に第二項から十三項までの定めがあったのでございしますが、この中の第五項というものが削除になりまして従いまして六項から十三項のものが一項目づゝ繰り下りましてが条例規定には変更はございませぬ。項目の番号がかつたといふふうには解釈願いたいと思います。

三十四條の二項「千六万円」と「三万円」にこれは障害者、未成年者、若年者または寡婦、これらの方々は年間前年度の所得が千六万円までのものは知しては税金をかけるはならぬとなつておりましてが今度は三万円までのものと非課税にするというものでございします。

三十四條関係でございします。これは小規模企業共済掛金控除。これが新たに所得控除の中に加えようとするものでございします。小規模企業共済制度と申しますのは昭和四十七年度に小規模企業制度が施行さへしまして月額五百円を一口として最高十口まで掛けることができる。事業がふるわない、再建したい、不慮の事態に立ち至ったときには限度額の金が出していただける。掛金以外のものはすべて国庫でまかなう制度だということでございしますが、商工会議所に向い合はせましてところ、館山市におきましては現在加入している人はほとんど

ないと思う。ただ、三三の希望者があるという御回答でございます。たゞ、現段階では市内においては該当局がないと私は考えております。そういうものが、ぶ掛けした金額を所得控除として認めようというものでございします。次の中、八条関係も項目整理でございします。五、七条関係も項目整理でございします。八、四、五、七条関係は現在までは軽自動車税に關する限り全部月割課税という方法で賦課徴収を行なうおたのでございします。が、今回の法改正によりまして、原動機付自転車、耕耘機に關しては月割課税を廃止するということになりまして、たゞ、そういうふうに変更するということもございします。

九条関係は今までの規定ですと、軽自動車税に對して減免を受けようとするときは「年度期別」を記入して申請なさうということでしたが、九条は申請書に因がありますので、年度はわかりません。期別も一期徴収で二期三期にわたるおきませんので、期ということも必要ないといふことで、これを單に「税額」に改めたいといふものでございします。

それから九、十、十一、十二は非課税の原動機付自転車、小型特殊自動車、が市内に所在するといふことになったとき、またはこれが課税対象になったとき、今までは非課税扱ひだったが、今度は課税対象になり、異動したときは十五日以内に市長に届出して、標識を受けなければ

ればなうたよ、ということでは、私は今までも大体そういうことになつておたんですが、特にここに法律的に非課税になつておるものそれから今までは單に所有者というふうになつておりました。が、使用者にも課税できるということになつておりますので、「使用者」という字句をここに加えたものでござります。

法、非課税の範囲と申しますのは、国、都道府県、市町村特別区、公営の組合財産、地方公共団体、こういうものが持つておるものは非課税であるというのが法律的な定めでございます。これが今までの条文になつておりませんので、これを仲間入りとさせるということでございます。

それから九十九条の七項のところは、今までは單に所有しないことになつたとき、ということが表現されておりました。が、使用者、課税もできることになつておりますので、「所有者」とは使用しない、こと、という使用という字句を付け加えようとするものであります。

それから附則の五項でございますが、これは配当所得を受ける場合、税務署に申告しますと、普通のその他の所得とは分離いたしまして、夏分の率という一定の税率をもつて課税される納めらるという制度がござります。これが租税特別措置法の八条の三の規定で

ございます。この場合は制限がございまして、たとえば年一回の配当を受ける場合にはこれは受けられない。それ以下の場合、小額配当の場合には、税務署に申告して認められれば分離して課税ができるのだ、納めることができるのだという規定になつておるんですが、これを市の条例では今まで昭和四十年度から四十三年度までの三年度分に限る。この分離課税は館山市では認めない、合算でいくのだ、というのが今までの条例でございまして、それを延長いたしまして、半年度から四十六年度に限り、四十六年度までは館山市は合算でいきたい、このようふうに決めたい、ということにございます。

平田議員は今までの規定は「昭和四十年度分の個人の市民税に限り」と云々というふうな半年度に限りの規定がされておたんですが、これはもう必要ないということにございまして、昭和四十三年度分の市たばこ消費税に關する特例」というふうに入めかえたものでございまして、この入めかえた内容でございまして、が御承知のとおり、たばこの値上げが実施されたら、市の方でも値上げをする。これは若干の売り上げが減るのではないかと、配慮から一定の補正率を加えて、実際は十割売れたんだが、十割売れたんだというふうな考へて、市の方に還元しようという内容のもとに、その補正率を二〇・三という補正率を設けた、というも

のでございます。次に三五項でございますが一口に申上げますと昭和四十八年度から四十八年度までの間、家畜市場において肉用中の売り渡りをした場合に市民税の所得割からその分に応ずる所得割額を控除してやるという文句になっております。この家畜市場においてという制限がございまして館山市におきましては私の存する限りこれに該当する場合はないというふうに思っております。

別表一の改正でございますが、ふは地方税法の課税標準額の端数計算に關する規定が改正になりまして、たとえば市民税あるいは固定資産税におきましては課税標準額は千円未満のものは捨てて計算するように改められました。今までは百円でしたが千円に上げてまいりました。そうゆう関係から退取^{所得}費^{所得}に關する市町村税の特別徴収をここに改めたいということ提議申し上げたわけでございます。従来の表と比較して見たのでありますが、大体控除後の退取金の六万円までの間は千円未満のきざみになつておりまして、これが三千円きざみに改められておりまして若干安くなるというふうに考えられます。この表の二枚目の中間あたりがきざみ方がわけております。従来と比較しますと税額においてそう増を生じておられないというふうに見えました。なお備考に参りまして備考

の後段に「この場合においては」というところから「百万円以上の納税義務者」の場合「千円未満」というふうに述べられておりますが従来は百万円未満でございまして、こういうふうにだんだん下の方の小さな数字は使わないというふうになつてきております。

そうしまして試みに三五年勤続して退職金を七百八十五万五千円もらったという例でやってみます。たうちようば前の数字と今回の数字と同一である。条例では税率が定まつておりまして自分の二から自分の十四までをふと累進的に計算します。でも答へはやはり同じになります。従つてこの税額表をこういうふうに改めまして納税者に不利になるということはないと存じております。以上で説明を終らせていただきます。

議長（吉田勇治郎君）御質疑ございませんか。——なうと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。おはかりいたします。本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決せられた。

日程第二 議案第四十九号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第四十九号 館山市助役の選任について

(市長登壇)

市長(本間 讓君) 議案第四十九号の館山市助役選任につきまして、高山伝君がもつとも適任者と考へまゝ御承を得たいと存する次第でございます。

高山君は昭和十三年三月に千葉県衛生書記をふりだりに、十四年五月には安房地方事務所税務課長、十六年九月山武地方事務所の税務課長、十七年六月山武地方事務所の総務課長、十八年六月には安房地方事務所の総務課長、二十三年六月、東京県税事務所長、二十四年六月、千葉県原県税事務所長、二十七年十二月、館山財務事務所長、二十九年四月、長生支庁長、四十三年三月には安房支庁長といふことにて、現在

に至ることで助役としても最適任と考えましてみなさま方の御了承を得たいと思
うわけでございます。

議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。

本案と討論省略採決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

おはかりいたします。

本市助役に高山伝君を選任することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本市助役に高山伝君を全会一致
選任することに同意することに決定いたしました。

以上により本臨時会の議事案件は全部議了されました。よって第二回市議会
臨時会を閉会いたします。

午前十一時三二分

閉会

一 本日の会議に付いた事件

議事日程に同じ

一 出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

嶋田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯辺 博

白熊 登太郎

黒川 正

三幣 勇

西村 真次

菊井 敏博

小柴 孝

山田 敬幸

遠山 三子

石井 正

五十嵐 昇

江田 徳太郎

安西 益男

島野 茂樹郎

中村 省吾

関 武夫

小澤 惠太郎

飯田義男

田中禄郎

田村源治郎

秋山六三郎

安澤徳順

望月照正

鈴木市蔵

山口康

一次席議員

なし

昭和四年五月十九日

右会議の次第を録しここに署名す

館山市議会議長

吉田常治郎

同 署名議員

三 節 勇

同

沼々義男

